

北広島市保健福祉計画検討委員会  
第3回 障がい福祉部会

日 時：平成29年9月12日（火） 午後6時30分～午後7時30分

場 所：北広島市役所 1階 多目的室4

◇北広島市保健福祉計画検討委員会委員

出席者：板垣委員（部会長）  
加藤委員（職務代理者）  
中村委員  
奥田委員  
若狭委員  
斉藤委員  
森委員  
近藤委員

欠席者：なし

◇事務局

奥山福祉課長  
柄澤高齢者・障がい者相談担当参事  
川又福祉課主査  
棚田福祉課主査  
玉手こども発達支援センター主査  
吉崎福祉課主任

◇傍聴者：1名

## 《議事概要》

### 1 開会

### 2 報告事項

事務局：（１）北広島市障がい支援計画（平成 27 年度～平成 29 年度）の評価、課題及び今後の方向性について、資料 1 『北広島市障がい支援計画（H27～H29）の評価、課題及び今後の方向性について』及び資料 1（別添資料）をもとに説明。

委員：こども発達支援センターは、小さいお子さんが利用するイメージだが、小学生や中学生も相談しに行っているのか、年齢別なものを教えていただきたい。

事務局：こども発達支援センターの療育相談は小学校 6 年生を対象としており、大体 350 件が幼児、50 件が学童で、そのうち幼児期からつながっていて、学校に行ってからもつながって相談に至った方が 40 件ぐらいで、新規相談は 10 件ぐらい。

委員：中学生になったらどこに相談を行けばよいか。

事務局：療育に関しては、学校のスクールカウンセラーや、教育委員会の相談支援チームへ相談となる。児童家庭課の家庭児童相談員にも相談が入るケースがある。

委員：では、こども発達支援センターは、12 歳まで、小学校卒業するまでのお子さんが相談に来ているのか。

事務局：現在は、そのようになっている。

事務局：（２）アンケート調査の実施結果について、資料 2 『平成 29 年度福祉に関するアンケート調査報告【調査結果】』及び資料 3 『平成 29 年度北広島市障がい支援計画策定に向けた市民意識調査【調査結果】』をもとに説明。

委員：障がい当事者向けアンケートの回収数について、福祉サービスの利用者と利用していない人の割合はわかるか。

事務局：把握できない。

委員：障がい当事者向けアンケートの回収率、前回と同じか。

事務局：前は、福祉サービス利用者だけの調査で、障がい者手帳を持っているが福祉サービスを使っていない方については今回初めて行ったため、一概に対象比較はできないが、前は、回収率は 61.7%で、今回は 56.0%となった。

委員：一般市民への意識調査について、4 割弱の回収率でちょっと低いですが、初めての取組みで、これを機会に関心を持たれた方もいるかと思うので、今後もこのようなアンケート調査を行っていくということも一つの方法と思う。

委員：市民向けアンケートの P16「障がいを持った方と触れ合う機会があるか」という設問に対し、事務局から約 7 割が「たまたま機会がなかったから」ということであり「機会をつくったほうが良い」と話があったが、市民全体に対しての障がい者の割合を考えたときに、例えば農業に従事している方とふれ合ったことがありますかとか、乳幼児とふれ合ったことがありますかという質問をしたときに、何割の人が「たまたま機会がなかったから触れ合った

ことがない」と答えるかなと考えていた。

ふれ合う機会をつくった方が良いのではと思う動機としては、障がい当事者の方々やそこを支援している方々の側の触れ合いたいというニーズが大きければ、促進すべきことと思うが、「ふれ合いたい」と「わかってほしい」は別だと思うので、現実のニーズはどうかと。

障がいを理解してほしいとか、世の中の障がい福祉がどうあるべきかを理解してほしいのであれば、ふれ合い方や啓発の仕方が違うのかなと感じる。

このアンケート結果の読み取りと、今の私の考えていることが直結しているわけではないと思うが、何かそういう捉え方ではないかと、委員の皆さんはどう思っているのかなと。

委員：確かに、やってないことの理由づけとして「たまたま～」に○をつけていることも考えられるので、積極的に障がい児・者と関わりたいけどたまたま機会がないと捉えて良いか、難しいところ。

委員：むしろ数は少ないが、「自分が何をすればよいかわからなかったから」「お節介になるような気がしたから」の方が、日常の色々な関わりの中でそういう声も聞こえるので、リアルな回答と感じる。

回答された方の中の何割かがこのように思うんだなどは感じた部分なので、こういう人が地域に何割かいて、その人たちとのふれ合いの中で、地域の支援や啓蒙という核になる人となっていければと。

委員：障がい当事者アンケートでは、地域で生活するために必要な支援について「障がいへの理解・促進」の回答が多いので、当事者の方たちは交流や理解が足りないと感じているのでは。

私は、当事者の方たちのお話を聞いて、自分の経験とか自分の悩みを知ってもらうとか、そのようなことを話す機会があると良いと思っていて、障がいの理解促進のためには、私たちが説明するよりも当事者が話したほうが伝わるので、そういう関わる機会を行政主体でも自立支援協議会主体でも、今後つくっていくというのは大事なのかなと。

当事者個人個人では様々な思いはあると思うが、やはり1人ではなかなかそういう機会がなく、市民も一人一人何か思っているが、やはりそういう機会がないということがあるかと、アンケート調査の結果が出ているので、そういう部分を少し考えていけたら良い。

#### 4 その他

事務局：今後のスケジュールについて、現計画の評価検証、アンケート調査結果、本日いただいた意見等を踏まえ、次期計画の基本的事項について次の部会でお示ししたい。

(異議なし、承認)

#### 5 閉会